

# 刈谷・小垣江神明神社 半世紀超ぶり

## 「夏越の大はらい」復活へ

刈谷市小垣江町の小垣江神明神社で三十日、今年上半期のけがれを取り除く神事「夏越の大はらい」が行われる。少なくとも五十年は催されておらず、半世紀以上を経て復活する。各地の神社に倣い、無病息災を祈ってくぐる「茅の輪」を境内に設置。コロナ禍を経て改めて健康を祈るとともに、地域のにぎわいにも結び付ける。

(諏訪慧)

### 30日実施 茅の輪くぐり 準備進む

復活のきっかけは、二〇一〇年に行っていた際に、年中行事を七一年作製の板版には、今一九九年に宮司に就いた野村記した板版を見つけたことも続く元旦の歳旦祭や秋の例祭などと合わせ、六月三十日に大はらいの式が記されていた。前宮司に尋ねると、理由は分からないが、少なくとも五十年は途絶えていると判明した。

復活を考えたが、新型コロナウィルス感染拡大で持ち越しに。コロナの感染法上の位置付けが季節性インフルエンザと同じ五類に移行したのを機に、企画した。地域住民が実行委員会を結成し、アシを伐採して人のくぐる輪に仕立てるなど準備を進めてきた。



①茅の輪を作る住民ら(実行委提供) ②蔵から見つかった板版を示す野村宮司=いずれも刈谷市小垣江町の小垣江神明神社で



茅の輪くぐりは午後五時に開始。かつて小垣江町を拠点とするなど地域と縁の深い「おとうふ工房いしかわ」(高浜市)も協力し、祈禱を受けた豆腐の冷ややっこ、地元産ショウガで風味を加えた同社子会社製造のクラフトビールを無料で振る舞う。野村さんは「地域の人が集い、交流する機会になれば」と期待を口に。ビールの振る舞いには「神社」と「ジンジャー」の言葉遊びが込められている。

午後四時からは祈禱も実施。祈禱は茅の輪を模したお守りなどが付いて千円で、当日の受け付けも可。茅の輪は一カ月前後は設置する考えで、好きな時にくぐる。